

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02200

研究課題名(和文)高橋亨「京城帝国大学朝鮮思想史講義」の研究

研究課題名(英文)Studies on Takahashi Toru's Lectures on the History of Korean Thought in Keijo Imperial University

研究代表者

権 純哲 (Kwon, Soon Chul)

埼玉大学・人文社会科学部研究科・教授

研究者番号：80253178

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、京城帝国大学教授高橋亨によって構築された新学問「朝鮮思想」の全体を明らかにするため、彼が残した朝鮮思想史・朝鮮儒学史関係「京城帝国大学講義」研究を主とするものである。具体的には、高橋の「朝鮮思想」研究の形成過程を追求し、正・負両面にわたる高橋の学問全容を究明するため、現存朝鮮思想関係講義ノート66冊の翻刻を完了し、既発表論著との対照研究を行った。その成果は『埼玉大学紀要(教養学部)』に発表し、国内外の学会と研究会にて報告した。ちなみに、翻刻したものは「完本」にし「朝鮮思想史編」と「朝鮮儒学史編」に整理し、2020年度研究成果公開促進費の助成により出版予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、大日本帝国の植民地朝鮮に開校した京城帝国大学教授であった高橋亨が残した朝鮮思想史・朝鮮儒学史関係講義ノートの内容を世に知らせることに意義が大きい。既発表の論文や記事には無い、未だ知らされることのなかった内容を含んでいるからである。

大日本帝国によって構築された「東洋哲学」「朝鮮思想」また「日本思想」という新学問に対する評価および研究は十分なされているとは言えない。新たな東アジア地域社会のヴィジョン模索が試みつつある今日、帝国植民地学問たる「朝鮮思想」の学問的基礎を作った高橋の学問は批判的考察の材料として重要であり、その新面目が示唆することは少なくない。

研究成果の概要(英文)：My studies aim on Takahashi Toru's lectures on the History of Korean Thought in Keijo Imperial University to make his whole academic achievements clear. Takahashi had researched Korean Thought in the colonial Chosen and built it as an academic field in Imperial Japan. His remained 66 notebooks on Korean Thought have been completely typed with checked on the original texts and compared with his books and papers. Some typed notes were published in Saitama Review(Faculty of Liberal Arts) as named by Lectures on Confucianism of the School of Heretics in Chosen: Typing of Takahashi Toru's Lectures in Keijo Imperial University, Lectures on the Outline of the History of Chosen's Thought. And some of the results were reported on the academic societies in Japan and Korea. In addition, the revised Takahashi Toru's Lecture Complete Version History of Korean Thought, and Complete Version History of Korean Confucian Thought will be published in 2020 by the Aid from JSPS.

研究分野：東アジア思想史

キーワード：韓国思想史 朝鮮儒学史 京城帝国大学 高橋亨 近代学問

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、「高橋亨の朝鮮思想史研究」(1997)を著して以来、大日本帝国学知形成における「東洋(哲ノ史)学」および「朝鮮学」の重要性に着目し研究を続けてきた。2011年、川原秀城・金光來編訳『高橋亨朝鮮儒学論集』(知泉書院)が公刊され、東京大学韓国朝鮮文化研究室にて京城帝大講義ノート(朝鮮思想)全66冊の白黒複写「高橋亨朝鮮思想資料」が公開され、注目された。翌年9月、高橋亨を中心議題とした台湾大学人文社会高等研究院主催「東亜視域中的韓国儒学研究」国際学術研討会議で「高橋亨の朝鮮儒学研究における異学派 - 京城帝大講義ノートを読む」を発表、始めて講義内容を学界に紹介し、関心の高さを再確認した。2015年、その成果である『高橋亨與韓國儒學研究』が臺大出版中心より公刊され、高橋亨に対する関心は今後さらに高まるものと予想される。手つかず状態にある高橋講義の新資料としての価値究明作業に着手したばかりであるが、新資料の広範な活用を促進する喫緊の課題を完遂すべく、本研究計画を立ち上げたのである。

高橋亨(1878~1967)は、1902年に東京帝国大学文科大学漢学科を卒業、2年後に大韓帝国の官立中学校備教師として渡韓、『韓語文典』(1909)、『朝鮮の俚諺集』(1910)を世に出し、1910年の韓国併合後は、儒生動向調査、朝鮮図書調査、史庫調査を行うなかで朝鮮儒学・朝鮮仏教研究を志し、1919年に学位請求論文「朝鮮の教化と教政」を以て東京帝国大学より文学博士の学位を授与された。植民地教育行政にたずさわりつつ、1926年京城帝国大学開校とともに朝鮮語学朝鮮文学第一講座担当教授に就任した高橋は『李朝仏教』(1929)のほか朝鮮儒学思想研究論文を発表し続け、五族協和と大東亜共栄を夢見る大日本帝国の朝鮮統治に貢献すべく、皇道思想の普及にも尽力する。

近代日本が築いた帝国学知のなかにあつて、「東洋哲学」と「日本思想」の枠組みを形成する上で決定的役割をはたした「朝鮮思想」の先鞭をつけた中心人物が高橋亨である。また、戦後日本の朝鮮研究の新たな出発を先導した朝鮮学会の創立と運営に尽力したことも高橋の学問人生において重要である。正・負とも高橋の学問的成果は、今なおその意義を失っていない。今までの「朝鮮思想」研究はもちろん「日本思想」「東洋哲学」研究に新たな反省的展望を示唆し、今後、韓国思想研究、東アジア思想研究の新たな進展に資することに本研究の意義が認められる。

2. 研究の目的

本研究は、高橋亨「京城帝国大学講義」研究を主として進め、高橋の「朝鮮思想」研究成果をあらためて整理し、正・負両面にわたる高橋の学問全容究明を目的とする。特に未発表内容を多く含む高橋亨「京城帝国大学講義」研究の成果は、日本から発信することに意味があり、日本と韓国だけでなく東アジアにおける近代学知の解体と現代学知の再構築のための新たな研究ネットワーク作りや活性化に貢献するものと考えられる。

近年、日本における韓国研究レベルの向上はもちろん、『高橋亨與韓國儒學研究』臺大出版中心(2015)にみるように、朝鮮儒学に対する関心の高まりには、目を見張るものがある。こうした学問的趨勢の中で、近代日本が築いた帝国学知の尖鋭と言える「朝鮮思想」を解析し、その思想史上の意味を再検証するための高橋亨研究の意義は大きく、この研究成果に対する国内外の期待は極めて大きい。

3. 研究の方法

高橋亨「京城帝国大学講義」(朝鮮思想関係)は、作成年無記入の『支那朝鮮儒学史』3冊、開校2年目の1927年作成の『朝鮮思想信仰史』6冊、同年から1930年までの『朝鮮儒学史』8冊と同講本20冊、1930年の『朝鮮思想史概説』1冊と『李退溪(与)李栗谷』4冊、1931年の『東洋道德』1冊、1933・34年作成の『朝鮮思想史概説』講本13冊、1935・36年の『朝鮮異学派之儒学』7冊と同講本4冊、あわせて7題目66冊が現存する。

高橋亨「京城帝国大学講義」研究は、以下のような段階を踏みながら進める。

(1) 全冊の翻刻を行う。その際、以下の研究を進める。第一、講義ノートに記された削除・追記など修正の目的・意味を考査し、第二、同題目の講義案と講本との対照研究、すなわち書き直しを追跡考察し、高橋学問の成熟進化過程を究明する。第三、彼の公刊論著との対照比較、第四、当時の学術状況との対照研究を行い、高橋の学問の普遍性と歴史性を究明する。第五、引用資料の出典確認と校勘を行い、関係人物の文集などに対する書誌的考察を行う。

(2) 高橋の既発表論文と雑文および高橋関係記事(専門学会誌や朝鮮発刊雑誌・新聞等)全てを新たに調査蒐集し、著作年譜を作成する。対照研究に活用するとともに高橋学問形成史を考察する。

(3) 出張調査を行う。第一、高橋の京城帝大、明倫学院、恵化専門学校、経学院、明倫鍊成所における活動を調査し、高橋の思想の変遷を跡づける。第二、引揚げ後、天理大学および朝鮮学会での活動について調査し、受講生からの聞き取り調査をも行い、具体的に跡づける。

(4) 全講義のカラー画像PDF化を完了する。

(5) 以上の研究成果をまとめ、学会あるいは研究会において発表し、レビューを受ける。その際、研究報告書「高橋亨：人と学問」(付：年譜と著作目録)を作成し、本研究成果の概容を知らしめる。

(6) 『高橋亨京城帝国大学講義：朝鮮思想関係』の公刊を進める。

4. 研究成果

本研究は、以上の方法によって進められ、未完了の調査を残したものの、おおむね当初の目的は達成できた。なお、2020 年度研究成果公開促進費による『完本高橋亨京城帝國大學講義：朝鮮思想史編』『完本高橋亨京城帝國大學講義：朝鮮儒學史編』の出版予定であることを付け加える。

以下、本研究による成果を列記する。

「【解題】高橋亨京城帝國大學講義」、権純哲、『埼玉大学紀要（教養学部）』第 53 巻第 2 号、117 - 175 頁（2019）

「高橋亨の退溪觀-朝鮮儒學史講義録を中心に」、『退溪學論集』第 23 号、嶺南退溪學研究院、7 - 40 頁（2018）韓文

「【資料翻刻】高橋亨京城帝國大學講義：朝鮮思想史概説（下）」、権純哲、『埼玉大学紀要（教養学部）』第 53 巻第 2 号、117 - 175 頁（2018）

「【資料翻刻】高橋亨京城帝國大學講義：朝鮮思想史概説（上）」、権純哲、『埼玉大学紀要（教養学部）』第 53 巻第 1 号、11 - 57 頁（2017）

「【資料翻刻】高橋亨京城帝國大學講義：朝鮮異学派之儒学：講義案（下）」、権純哲、『埼玉大学紀要（教養学部）』第 52 巻第 2 号、135 - 188 頁（2017）

「【資料翻刻】高橋亨京城帝國大學講義：朝鮮異学派之儒学：講義案（上）」、権純哲、『埼玉大学紀要（教養学部）』第 52 巻第 1 号、53 - 100 頁（2016）

「朝鮮思想再考」、権純哲、『「心身 / 身心」と環境の哲学』伊東貴之編、汲古書院、117 - 141 頁（2016）

「李炳憲の儒教思想について—高橋亨京城帝國大學講義の再検討—」：韓國慶尚大學校南冥學研究所國際シンポジウム、2015 年 4 月

「實学派と異学派」：韓國實學學會秋季國際學術大會、2016 年 9 月

「高橋亨の遺産発掘：京城帝國大學講義研究序説」：延世大學校国学研究院第 461 回国学研究発表会、2017 年 6 月

「高橋亨の遺産発掘：京城帝國大學講義研究序説」：韓國現代哲学研究会、2017 年 6 月

「高橋亨の朝鮮儒學史における盧守愼の記述と評價」：韓國陽明學會・蘇齋盧守愼國際學術大會、2018 年 9 月

「高橋亨の退溪觀」：嶺南退溪學研究院學術發表會、2018 年 9 月

「帝國・植民地・南北の退溪研究を顧みる」：嶺南退溪學研究院學術發表會、2019 年 4 月

「高橋亨京城帝國大學講義ノート翻刻を終えて」：國際日本文化研究センター伊東研究班、2019 年 8 月

以上。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 権純哲	4. 巻 23
2. 論文標題 高橋亨の退溪觀 - 朝鮮儒學史講義録を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 退溪學論集	6. 最初と最後の頁 7~40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 権純哲	4. 巻 54
2. 論文標題 〔解題〕高橋亨の京城帝國大學講義ノート	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 (教養学部)	6. 最初と最後の頁 39~51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 権純哲	4. 巻 53 - 1
2. 論文標題 【資料翻刻】高橋亨京城帝國大學講義朝鮮思想史概説 (上)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 (教養学部)	6. 最初と最後の頁 11・57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 権純哲	4. 巻 53 - 2
2. 論文標題 【資料翻刻】高橋亨京城帝國大學講義朝鮮思想史概説 (下)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 (教養学部)	6. 最初と最後の頁 117・175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 権純哲	4. 巻 51-2
2. 論文標題 朝鮮異学派之儒学：講本（下）	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要（教養学部）	6. 最初と最後の頁 95-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 権純哲	4. 巻 52-1
2. 論文標題 朝鮮異学派之儒学：講義案（上）	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要（教養学部）	6. 最初と最後の頁 53-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 権純哲	4. 巻 52-2
2. 論文標題 朝鮮異学派之儒学：講義案（下）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要（教養学部）	6. 最初と最後の頁 135-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 権純哲
2. 発表標題 高橋亨の朝鮮儒学史における盧守愼の記述と評価
3. 学会等名 韓國陽明學會（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 権純哲
2. 発表標題 高橋亨の退溪觀
3. 学会等名 嶺南退溪學研究院（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 権純哲
2. 発表標題 高橋亨の遺産発掘：京城帝国大学講義研究序説
3. 学会等名 延世大学校国学研究院（韓国）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 権純哲
2. 発表標題 高橋亨の遺産発掘：京城帝国大学講義研究序説
3. 学会等名 現代哲学思想研究会（韓国）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 権純哲
2. 発表標題 帝国植民地学問‘朝鮮思想（史）’における実学派と異学派：稲葉岩吉と高橋亨の事例
3. 学会等名 韓国実学学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 権純哲 伊東貴之編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 818(117 - 141)
3. 書名 朝鮮思想再考 「心身/身心」と環境の哲学	

1. 著者名 権純哲 金錫根編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 峨山書院	5. 総ページ数 390 (20-71)
3. 書名 ゾンビ概念の生成と変化 ソンビ精神と韓国社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----